

「マクロ経済学 I」試験解答用紙

(担当者名：蓮見 亮)

採点欄

2014年8月1日(金) 9時30分～10時30分施行	学部	学科	年 組
・試験時間 60 分、解答用紙全 2 ページ ・問題用紙別 ・持ち込み不可 (ただし、事前に許可を受けた場合を除く) ・電子機器は電卓のみ使用可	学生証番号		
	氏 名		

問 1.

問 1

(ア)	H	(イ)	N	(ウ)	H
(エ)	N	(オ)	K	(カ)	G
(キ)	F	(ク)	B	(ケ)	J
(コ)	I (⇔Q)	(サ)	Q (⇔I)	(シ)	R
(ス)	A (N)	(セ)	J	(ソ)	P
(タ)	C	(チ)	U	(ツ)	O
(テ)	S	(ト)	E	(ナ)	M
(ニ)	L				

問 2.

問 2

I. 一定期間において、一国内で生産される全ての最終的な財・サービスの市場価値。
 (「一定期間において、一国内で生産される財・サービスの付加価値の合計」でも可)

II. GDPには余暇の量や質、環境の良さ、国民の健康の価値が反映されない点
で、社会の経済的福祉の尺度として不十分な面がある。

III.

(1)	104	兆円	(2)	7	兆円	(3)	529	兆円
(4)	481.4	兆円	(5)	2.1	%	(6)	1.8	%

IV. 実質GDP のほうが優れている

理由 過去と比較して現在の名目GDPが増加しているも、物価が同率以上に上昇していれば、現在が過去に比べてより豊かになったとはいえないから。

問3. I.

問3

第1年	100	第2年	150	第3年	225
-----	-----	-----	-----	-----	-----

--

II. 2015/7/15 訂正 (採点は正しい解答でされています)

	農家	地主	小売業者
第1年	28	12	60
第2年	52.5	22.5	75
第3年	63	27	135

III.

第1年	100	第2年	125	第3年	150
-----	-----	-----	-----	-----	-----

IV.

第2年	120	第3年	150
-----	-----	-----	-----

問4.

問4

I. 仮に一方の産業の賃金のほうが高かった場合、その産業には労働の余剰が、他方の産業には労働の不足が発生するので、均衡では二つの産業の賃金が等しくなる。

--

II. 自動車製造業では労働需要が減少し、航空機製造業では労働需要が増加する。

III.

短期 自動車製造業の均衡賃金は下落し、航空機製造業の均衡賃金は上昇する。

長期 労働者を訓練するのに十分な時間の経過後には、自動車製造業と航空機製造業の均衡賃金は等しくなる。

IV. 労働需要が減少した自動車製造業で労働者の余剰が発生するが、航空機製造業の雇用には直ちに転換されないため、(構造的) 失業が発生する。